

令和8年度 調布市立第二小学校 学校経営計画（学校長 関村 明子）

学校の教育目標

「かがやけ二小の子」 ○「か」んがえる子 ○「が」んばる子 ◎「や」さしい子（重点） ○「け」んこうな子

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

☆目指す学校像『子どもたち、地域・保護者、教職員の笑顔あふれる学校』

ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく素直な児童が多く、上級生が下級生を気遣うなど、学年を超えた関わりが見られる。 ・令和2年に起こった眼の負傷事故を教訓とし、引き続き安全指導を徹底していく。 ・昨年度開校80周年を迎え、学校と地域との連携が深まった。今年度も、学校と地域との連携をさらに深めていく。
-------------------------	---

中期的な経営目標

- 1 思いやりの心を持ち、多様な価値観を認め合える児童を育成する。
 - 2 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行うとともに、自ら学びに向かう児童を育成する。
 - 3 自ら健康な生活を送ろうとする児童を育成する。
 - 4 安全・安心な学校づくりを推進する。
 - 5 個に応じたよりよい指導・支援のための特別支援教育を推進する。
 - 6 地域教材・地域人材を活かした教育活動の充実と学校運営協議会を中心とした地域との連携をさらに推進する。
- 人・組 それぞれが職層に応じた役割を自覚し、学校経営方針を具現化するために協働し合う組織を構築する。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
1 異学年交流「たてわり班活動」を通年でい、自己のよさや力を活かす経験を通して、自己肯定感や自己有用感を高める教育の充実を図る。	1 思考場面を大切にし、学習形態や学習方法の工夫などにより、自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えと比較したりする対話的な学習を推進する。	1 日々の体育授業や体育的活動を充実させると共に、児童の運動の日常化を目指した取組の充実を図り、体力向上を目指す。
2 人権尊重の精神を基盤とし、児童、教師、保護者、地域が一体となっていじめや体罰を許さない学校風土を醸成する。自分の「よさ」や他者の「よさ」、互いの違いを認め合い、自分も他の人も大切にしている児童の育成を図る人権教育を推進する。	2 教科担任制や交換授業の推進を授業改善に繋げ、児童が「学ぶことを楽しむ」「わかる喜びを実感できる」授業づくりに取り組み、教員の指導力向上を目指す。	2 校庭の芝生を有効活用した運動や体力テストの結果を踏まえた運動教具の開発や環境整備を推進する。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
1 学校評価アンケートでは、たてわり活動とあいさつ運動について、肯定的評価85%以上をめざす。	1 学校評価アンケートでは「学習理解」「指導の工夫」に関する肯定的評価85%を目指す。	1 体育授業では運動量を十分に確保し、体力の向上を図る。学校評価アンケートでは、体力向上に関わる肯定的評価85%を目指す。
2 学校評価アンケート・児童アンケートにおいて、「楽しく学校生活を送っている」という項目で肯定的評価85%以上を目指す。	2 全国及び東京都が実施する学力調査では、各教科・観点等における正答率において、都平均値を上回る結果となることを目指す。	2 学校評価アンケートでは「すすんで運動をしている」の項目で、肯定的評価80%を目指す。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

4 安全・安心な学校づくりの推進	5 特別支援教育の推進	6 地域との連携
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
1 毎週1回、生活指導夕会を開催し、共通理解を図るとともに、週ごとに適時性のある安全指導を行えるようにする。毎月の安全点検と合わせ安全指導を毎月実施する。	1 「就学支援シート」、「個別指導計画」、「個別支援計画」の効果的活用を図り、校内委員会を基軸として、組織的に一人ひとりのニーズに応じた支援を行う。	1 学校運営協議会による意見や評価を積極的に取り入れ、学校運営の改善を図るとともに、取組状況について積極的に情報発信を行う。
2 食に関する教育計画を基に食に関する指導の充実を図る。また、毎日、朝は学級担任と児童、給食配食時には管理職、学級担任、栄養士、調理員、児童本人による除去食等の複数点検を行い、食物アレルギー事故ゼロを維持する。	2 職員打ち合わせを活用し、全教職員が情報共有を行い、特別に支援が必要な児童に対する理解を深めるとともに、よりよい支援の在り方について全職員が共通認識をもち支援にあたることのできるようにする。	2 地域人材や地域の教材を活かした第二小ならではの教育活動を推進する。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
1 学校評価アンケートにおける「安全指導」「規範意識」の項目について、肯定的評価85%以上を目指す。	1 特別支援教育コーディネーターが中心となって、校内委員会を月1回開催する。「個別指導計画」「個別支援計画」を100%作成し、活用する。	1 学校運営協議会を年6回開催し、学校運営について意見を求めるとともに、地域連携にかかわる評価を受ける。
2 毎日、朝と喫食前の複数でのアレルギーチェックを100%徹底する。喫食を伴う教育活動も含め、食物アレルギー事故ゼロを維持する。	2 学校評価アンケートにおいて、「特別支援」の項目で肯定的評価80%以上を目指す。	2 自己点検や学校評価アンケートでは、「地域連携」「情報発信」の項目について85%の肯定的評価をめざす。

人材育成・組織運営

- ・主幹教諭及び各部主任教諭を中心とし、校内組織の質的向上とOJTの充実を図る。
- ・職層に応じた職責の自覚を促し、校務改善及び指導力の向上を図り、人材育成に繋げていく。